

動物性自然毒

フグ毒

フグ毒は、動物性自然毒の代表的なものです。2000年～2009年の食中毒の統計をみると、フグ毒による死者は、全死亡者の36%を占め、死亡率が他の食中毒と比べて高いのが特徴です。

フグ毒の主な原因物質であるテトロドトキシンは耐熱性で通常の加熱調理では分解されません。大阪市でも自分で釣って帰ったフグを自宅で調理して食べ、中毒となった事例が発生しています。釣ったフグの処理は、フグを取り扱う資格を持つ専門の方に依頼して下さい。

フグ毒を持つのは、フグだけではなくありません。近年、九州地方を中心に発生している腐肉性巻貝キンシバイによる食中毒もテトロドトキシンであることが確認されています。

シガテラ毒

シガテラは、熱帯および亜熱帯の海洋に生息する毒素を産生するプランクトンを食べた魚介類の体内に毒素が濃縮され、その魚介類を摂取することで発生する食中毒の総称です。シガテラによる死亡率は、高くありませんが、世界中で毎年数万人規模で発生していると推定され、世界で最も多い自然毒由来の食中毒であると考えられます。

日本でも沖縄や奄美諸島で毎年数件のシガテラが発生しています。中毒症状は多様ですが、最も特徴的な症状は、ドライアイス・センサーション（温度感覚異常）で、暖かいものに触れても冷たく感じ、水に触れるとドライアイスに触ったような冷たさや痛みを感じるためにこの名があります。

今までは熱帯・亜熱帯地方特有の食中毒事例として考えられていましたが、2008年には大阪でも和歌山県で釣上げたイシガキダイを原因とするシガテラが発生しており、近年本州でも散発的に発生しています。これは有毒プランクトンの生息域が地球温暖化により拡大しているのが原因であるとも疑われています。今後、十分注意しなければならない自然毒食中毒のひとつです。

植物性自然毒

植物性自然毒は、植物やキノコのもつ天然有害物質のことです。トリカブトに代表される強力な有毒植物もありますが、私たちの身近な植物にも有害成分は含まれています。

小学校などで栽培した未熟な、あるいは芽の出たジャガイモを食べたことによる食中毒が、植物性自然毒による中毒の代表的なものです。また、2011年に小学校でニラと間違えてスイセンを調理して食べてしまった事例や、チョウセンアサガオの根をゴボウと間違えたり、刺身に添えられたアジサイの葉を食べてしまうなど、誤食による食中毒も報告されています。また、有毒植物の「キダチタバコ」を「カラシダネ」という別名から食用と勘違いした事例も2010年に起きています。

キノコによる食中毒も注意が必要です。2011年は猛毒のカエンタケが各地で大量発生し、多くの自治体で注意喚起されましたが、近年は環境の変化などで過去に事例の少なかった毒キノコが発生したり、従来は食用であったスギヒラタケが中毒原因と疑われる事例もみられます。

季節の山菜やキノコは非常に魅力ある食材ですが、場合によっては命を落とす可能性もあり、安易な判断で食べたりすることは避けましょう。



身近な植物性自然毒

植物（毒成分）

ジャガイモ（ソラニン、チャコニン）、
スイセン（リコリン）、トリカブト類（アルカロイド）、
チョウセンアサガオ（アルカロイド）

キノコ（毒成分）

クサウラベニタケ（ムスカリン）、ツキヨタケ（イルジンS）、
カキシメジ（ウスタリン酸）、カエンタケ（トリコテセン類）、
ドクツルタケ（アマトキシン類）、スギヒラタケ（レクチン）

さらに詳しい情報は

大阪府「食中毒に関すること」 (<http://www.pref.osaka.jp/shokuhin/shokutyuudoku/>)

大阪市「食中毒について」 (http://www.city.osaka.lg.jp/shimin_top/category/716-3-4-3-0.html)

(食品保健グループ 仲谷 正、村上 太郎)

平成23年度 府市連携環境セミナー

大阪市立環境科学研究所・大阪府環境農林水産総合研究所 共催

- 1 ごみ問題は環境問題? ~分別すれば何が変わる?~ 酒井 護 (大阪市立環境科学研究所)
- 2 最近の大気汚染の話題から 山本 勝彦 (大阪府環境農林水産総合研究所)
- 3 「土壌汚染」ってなんだろう? 加田平 賢史 (大阪市立環境科学研究所)

- 日 時 : 平成24年3月16日(金) 14時~16時15分
- 会 場 : 大阪市立環境科学研究所 大会議室 (大阪市天王寺区東上町 8-34)
- 定 員 : 60名(先着順) ● 参加費: 無 料
- お申込み: はがき、ファックス、電子メールまたは電話で受け付けています(平成24年3月9日(金)必着)
「住所・氏名・連絡先」をご記入のうえ 以下の宛先へ
〒543-0026 大阪市天王寺区東上町8番34号 大阪市立環境科学研究所調査研究課 企画
ファックス 06-6772-0676
電子メール seminar-kankaken@city.osaka.lg.jp
電話でのお申し込みは、電話 06-6771-3043(係直通)